

第4章 協働プロジェクト

環境問題に取り組むためには、環境保全活動への関心や参加意欲の向上、環境保全活動を担う人材や組織の発掘・育成などが求められます。こうしたことから、第2次環境基本計画の中で市民・事業者と市が協働して取り組む「協働プロジェクト」を位置づけています。

「望ましい環境像」の実現に向けて協働プロジェクトを推進することにより、環境問題への関心の拡大、環境活動への参加拡大、地域コミュニティの活性化、町会・自治会と環境保全活動団体の連携拡大を図ります。

協働プロジェクトの評価は、市で把握できる市民・事業者との協働による活動実績（評価指標として参加者数、活動箇所数や参加世帯数など）及び活動状況などについて把握し、5つのプロジェクトごとに結果をとりまとめ評価します。

第1節 里山復活プロジェクト

私たちの生活の身近な場所にある里山・谷戸や斜面緑地など、貴重なみどりの機能を回復することが重要です。地下水かん養や生物多様性の保全など、みどりや水辺の持つ多面的機能の回復をめざします。

	令和4年度実績
評価指標	「上川の里」特別緑地保全地区整備（活動箇所1、参加者延べ555人 前年比125人減） 斜面緑地保全区域維持管理ボランティア（活動箇所1、参加者延べ17人 前年比6人増） 公園アドプト制度（活動箇所20、登録者1,266人 前年比8人減） 館さとやまくらぶ（活動箇所1、参加者延べ68人）

<庁内環境調整委員会での総括評価>

各事業とも緑地や公園など地域の自然環境を活かした環境教育・環境学習の場として活用している。新型コロナウイルス感染症対策を行ったうえで活動再開をしたが、高齢化に伴う活動団体や担い手の減少が今後懸念される。

<今後の展開>

里山等の保全について継続して啓発を行うとともに市民・事業者・市が協働し、環境教育・教育学習の場などとして活用していく。また、新たな担い手（民間企業）との協働、活動場所の拡大に取り組む。

<環境推進会議の意見>

多くの里山で活動が行われており、環境学習の場所としても活用している。里山風景を保存している公園等については特に里山の生態系が悪化することのないよう、専門家の意見を求めながら継続的に指導する体制をお願いしたい。また、里山保全活動を行う若い世代を含む人材の育成に取り組んでほしい。



第2節 生ごみ資源化促進プロジェクト

「循環型都市八王子」の実現には、一層のごみの減量・資源化が重要です。生ごみの減量・資源化のため、地域の特性に応じた生ごみの地域循環を促進します。

令和4年度実績	
評価指標	ダンボールコンポスト講習会（参加者310人 前年比57減） コンポスター、密閉式容器による生ごみ資源化講習会（参加者12人 前年比1人減） 生ごみ減量化処理機器等の購入費補助個数（1,101個 前年比234個増）

<庁内環境調整委員会での総括評価>

新型コロナウイルス感染防止等により、募集定員を半分に縮小した期間があったことや、雪等の理由から講習会が2回中止となったことから、参加者減となった。各家庭へ生ごみの資源化を普及するため、ダンボールコンポストをはじめとする生ごみの資源化手法を、八王子市生ごみリサイクルリーダーが講師となって講習会を実施しているが、取組を始めても続かない人が多い。

<今後の展開>

地域特性に応じた取組や各地区に生ごみリサイクルリーダーを配置するため、生ごみリサイクルリーダーを養成していく。また、講習会参加後もダンボールコンポストの相談ができる機会を増やし、継続した取組をめざす。

<環境推進会議の意見>

地域で簡単に取り組めるダンボールコンポストは、生ごみを資源化する大事なツールのひとつである。今後、当初の目標に対して現状がどのように進行しているのかを把握し、見直し等を含め取り組むとよい。



第3節 省エネ応援プロジェクト

地球温暖化を防止するためには、一人ひとりが二酸化炭素排出量の削減に取り組んでいくことが重要です。家庭や職場、地域などで省エネ知識を高め、簡単に継続的に取り組める省エネ行動を応援します。

令和4年度実績	
評価指標	家庭における省エネ行動の推進（はちおうじエコアクションポイント会員[4, 873世帯]前年比21世帯減）

<庁内環境調整委員会での総括評価>

地球温暖化防止活動推進員および八王子市地球温暖化防止活動推進センターを通じ、市民・事業者に対し省エネの普及啓発を行うとともに、省エネ行動に継続的に取り組むよう促した。

<今後の展開>

はちエコポイント会員のなかで、省エネ行動等に取り組む会員（ポイントによる商品交換者）は、約5,000世帯のうち、約400世帯となっている。既会員の本取組への参加率向上を図るため、ナッジの活用などさまざまな手法の活用を検討する。

<環境推進会議の意見>

はちエコポイントについては利用率が低く、登録世帯数も少ないと感じる。デジタルを活用するなどして、省エネ行動が全市に広がる取組となるよう努めてほしい。二酸化炭素削減には市民だけでなく、事業者への啓発にも取り組んでほしい。



第4節 環境教育サポートプロジェクト

環境問題を解決していくためには、一人ひとりが問題を認識・理解し、行動することが重要です。小・中学校における総合的な学習の時間などを活用し、学校での環境教育を支援します。

令和4年度実績	
評価指標	環境教育支援事業（実施31校、授業を受けた児童・生徒2,264人 前年比101人増）
	八王子浅川水辺の楽校（授業を受けた児童・生徒523人 前年度比271人増）
	八王子市小学校科学教育センター事業（センター生に登録した児童80人 前年比増減0）
	子ども景観学習（令和4年度より開始 2回実施 参加した児童・生徒60人）
	自然観察会（参加した児童・生徒25人 前年比1人増）
	北野環境教育・学習拠点づくり（環境施設の社会科見学で受け入れた児童・生徒1,636人 前年比756人増）

<庁内環境調整委員会での総括評価>

新型コロナウイルス感染症が収束し、課外授業等の実施が可能になったことから、学校側の需要が高まり、参加人数が増えた。

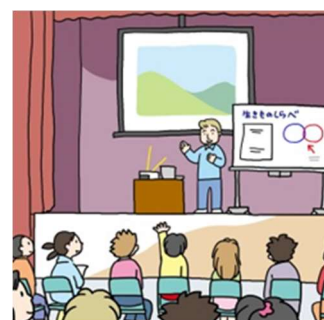
<今後の展開>

環境教育支援者数が高齢化により減少傾向であり川の学習サポーター養成講座を行い支援者の増加を図る。また、市民や学校のニーズを把握し、講座内容の充実等により参加者の増加を図る。

あったかホールを活用しながら、環境教育のさらなる推進に努めていく。

<環境推進会議の意見>

小・中学生への環境教育は非常に重要な取組である。引き続き各所管が連携を図り、市民・事業者・市の協働により環境教育を進めてほしい。



第5節 地域の環境美化プロジェクト

まちの美化を進めるためには、モラルやマナーを守り、都市の美観を保持することが重要です。市民・事業者が、清潔で美しい地域の環境づくりに取り組めるよう支援します。

令和4年度実績	
評価指標	道路アドプト制度（活動団体63 前年比5団体減）
	公園アドプト制度（登録者18,615人 前年比36人増）
	水辺の水護り制度（登録者462人 前年比4人減）
	落書き消去活動（参加者延べ0人 前年比15人減）
	生活安全パトロール（参加者延べ720人 前年比600人増）
	違反屋外広告物除去活動（参加者延べ158人 前年比46人減）
	地域モデル花壇支援事業（支援団体数5団体 増減0）
	コミュニティ花壇創出事業（支援団体数2団体 前年比1団体増）
	花づくり事業（会員54人 前年比1人増）
	戸吹清掃美化委員会（参加者延べ192人 前年比増減0）
	慰霊塔清掃（参加者延べ160人 前年比2人増）
	老人ホーム跡地美化（参加者延べ561人 前年比187人増）
みんなの町・川の清掃デー（参加者18,702人 前年は中止）	
生涯学習センター植栽ボランティア（参加者217人 前年比94人増）	

<市内環境調整委員会での総括評価>

高齢化による活動辞退がある一方で、新型コロナウイルス感染症の影響により縮小していた活動が再開したことや、別事業のグリーンパートナー養成講座修了生等の新規参加があった。

<今後の展開>

市民ボランティアの高齢化と新規加入確保が課題であり、今後も継続して幅広い年齢層の周知や、広報等によるアドプト団体の募集、企業向けの活動推進を行う。

<環境推進会議の意見>

市民ボランティアが継続して美化活動に努めている。市は、今後も地域の環境づくりに取り組めるよう支援し、さらに多くの市民が参加できるよう努めてほしい。

